

研究の目的と方法

I. 目 的

近年各地で、乗馬を通じての障害のある子どもに対する指導や療育が注目を集めている。これにともない、障害のある子どもの教育の領域でも指導の一環として乗馬や厩務作業を取り入れる養護学校がでてきている。また、これらの実践を通じ、運動に障害がある子どもに対する運動・動作の改善やコミュニケーションに困難のある子どもに対する馬を媒介とした学習の有効性が報告されている。今後、この領域は学習指導要領にある「自立活動」、「総合的な学習の時間」での取り組み、また障害のある人々の余暇活動など生活の質の向上に資する内容としてさらに広まっていく可能性がある。

しかし、近年、関係者から寄せられる本研究に対する実践方法や理論に関する問い合わせの内容から、この領域に関する指導法の開発や有効性などについて指針が求められていることがわかる。企画者らはこれまでも部分的に検討を行ってきたが、さらに実践において得られた資料、各地の実践資料、諸外国の資料の収集・分析を行い、本領域の枠組み、特徴及び技法についての指針を得ることを本研究の目的とした。

II. 方 法

1. 手 続 き

以下の5つの方法で研究をすすめる。

- (1) 研究所における馬を用いた指導の実践と検討
- (2) 研究協力機関における馬を用いた指導の実践と検討
 - ① 所内分担者が直接に指導実践を行う
 - ② 研究協力者が指導実践を行う
- (3) 国内各地の馬を用いた指導実践に関する資料の収集と分析
- (4) 国外の馬を用いた指導実践及び理論等に関する資料の収集と分析
- (5) 研究協議会における関連資料に関する協議

2. 研究期間

平成11年度から同13年度までの3年間。

研究成果は平成14年度にまとめる。

3. 研究組織

(1) 所内研究分担者

笹本 健 (肢体不自由教育研究部)

滝坂 信一 (肢体不自由教育研究部；研究の企画・推進)

當島 茂登 (” ”)

徳永亜希雄 (肢体不自由教育研究部；平成14年1月から)
落合 俊郎 (知的障害教育研究部；平成12年3月まで、
現在広島大学)

徳永 豊 (肢体不自由教育研究部；平成13年10月まで、
現在知的障害教育研究部)

(2) 研究協力者

飯島 友子 (茨城県鹿島郡大洋村立白鳥東小学校・教諭)

加藤 守松 (愛知県立三好養護学校、現在愛知県立名古屋養護学校・教諭)

川嶋 舟 (東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻博士課程・獣医師)

高橋 公正 (芝山カントリーファーム・代表)

深野 聡 (茨城県鹿島郡大洋村、現在社団法人東京乗馬倶楽部・職員)

三輪 俊治 (社会福祉法人南高愛隣会感性療育研究所・所長)

安川千壽子 (長野県木曾養護学校・教諭)

(3) 研究協力機関

青森県立第二高等養護学校

石川県立錦城養護学校

茨城県鹿島郡大洋村

富山県立富山養護学校

長野県木曾郡開田村

長野県木曾養護学校

III. 結 果

研究成果である本報告書は、4部から構成されている。第I部は、障害のある子どもに対する馬を用いた指導とはどのようなものか及びその意義について、諸外国や国内の歴史的な経緯を概観した観点から、獣医師の観点から、そして障害のある子どもにかかわる学校教育の観点から述べている。第II部は、研究所での実践及び研究協力機関である特殊学級、養護学校で行われた実践と教育課程への位置づけや実践上の課題に関する事例及び実践の際に配慮された事項について述べている。第III部は、本研究部がかかわって一つの村が行った、障害のある子どもの教育に馬を取り上げて継続的な指導の経緯を事例として取り上げた。最後に、第IV部で本研究で扱っている「馬」を含めた教育のなかで動物を取り扱うことの意義について、及び障害のある子どもの教育において動物がどのように取り上げられているか、馬を用いた指導の認知度や実施の実態に関する調査結果を取り上げた。